



みのり歯科 3つのお約束

1. 笑顔・親切・丁寧
2. 清潔で安全な環境づくり
3. 全身の健康(健口)管理と予防

院長より

木々の葉も色付き、秋も深まってまいりました。診療中にふと窓の外を見上げると真っ青な空が目に入ります。毎年ニュースレターに書かせていただきますが、この季節になると医院の名前を「みのり」と名付けた頃を思い出します。

「みのり歯科診療所」と決めたのは11月でした。秋晴れのさわやかな日に県立美術館の庭で子供と遊んでいた時に、ふと見上げると雲一つない真っ青な空に、たくさんの赤い実を付けた木が目に入りました。「実りの秋」という言葉が頭に浮かびました。治療が実って患者様が元気になってくださるよう、そして治療を通してお一人お一人と実り多い豊かな人間関係を築くことができるようにという願いを込めて(幼い頃にテレビで見た「赤ひげ診療譚」を連想して)、「みのり歯科診療所」と名付けました。

開業して14年。たくさんの出会いがありました。高校生の時に通院していたYちゃん。大学も就職先も東京だったので、随分会っていませんでした。お母様から今春結婚が決まったとお聞きして、美しい花嫁姿を連想していました。そして明日海外に赴任するという忙しい時に素敵なお母様と一緒にご挨拶に来てくれてびっくりしました。進学や就職で佐賀を離れても、休みが取れた時に定期健診に来てくれる子が何人もいます。久々に歯垢を赤く染め出して、「ヤバー」と言いながらブラッシング指導を受けている子供たちを見ると思わず彼らの幼稚園や小学校時代を思い出してほほえましくなります。また、年配の患者様から、「毎月ここに来て口の中を綺麗にしてもらおうと本当に気持ち良いです。先生や衛生士さん達といろいろお話するのが楽しみなので、どこも悪いところがないから来なくていいよ、なんて言わないでね」とおっしゃられた時に、少しずつですが、私の理想とする「実り豊かな」医療に近づいてきたようで、本当に嬉しく思いました。これからもスタッフと共に暖かく心のこもった医療を目指して努力してまいります。

第7回健康講座



いよいよ今月23日(水)に第7回健康講座を開催致します。今回も、素敵なお土産を各業者の方からご準備して下さいます。その中でも当院で取り扱っており院長も7年愛用しているサプリメントのアスタリール、なんと、1ヶ月分を先着80名様分プレゼントとしてご用意して下さいます。無料体験コーナー(血管年齢・口唇力測定・ビタミンミネラル測定)もございますので、ぜひ足をお運びくださいませ。

↓第6回健康講座の様子です。



オゾン

9月18日、「オゾン療法」の研修を受けてきました。オゾン療法とはオゾンガスを血液に混ぜて点滴したり、直接皮下や腸に注入するものです。糖尿病やパーキンソン病、関節リウマチ、血液疾患、皮膚疾患などに有効とされています。もちろん歯周病にも効果があります。特にこれといった病気の無い方にも健康維持のためにはとても効果があります(冷え性にはその場で体感があります)。イタリアン医師のランベルト先生が来日されるという滅多にないチャンスでしたので、日帰りで東京に行って参りました。とても熱のこもったお話しで、色々な治療法を説明して下さいました。通訳をして下さった新福先生(彼は毎月海外のセミナーを受けています)には月に1回スカイプで世界の最先端の治療法を習っています。主婦の私はなかなか海外まで勉強に行くことはできませんが、インターネットを使うことで色々学ぶことができます。便利な時代ですね。



今年初めに機器はドイツから購入していましたが、日々の忙しさになかなか使うことができませんでした。顎関節症や頭頸部の痛みにも応用できる方法を教えていただきましたので、臨床に役立てたいと思います。

いちいせんしん 一意専心

藤尾秀昭 著

「致知」の言葉「小さな修養論（致知出版）」より

埴保己一（はなわほきいち）は延享（えんきょう）三（一七四六）年、武蔵国児玉郡保木の（ほきの：現・埼玉県本庄市）に生まれた。生家は裕福な農家だったが、五歳の時、思いがけない病魔に襲われる。目が次第に光を失っていったのだ。

母きよは保己一を背負い、片道八キロの道を一日も欠かさず藤岡（現・群馬県藤岡市）の医師のもとに通い続けた。

なんとしても我が子の目を治したい一念だった。しかし、保己一は七歳で完全に失明した。さらに、十二歳で最愛の母が亡くなってしまう。保己一は杖を頼りに毎日墓地に行き、母の墓石に向かって泣き続けた。

涙の中で一つの決意が生まれた。江戸に出て学問で身を立てよう。保己一は耳にしたことはすべて記憶するほどの抜群の記憶力の持ち主だったのである。保己一の情熱は父を動かした。絹商人に手を引かれ、保己一は江戸に旅立つ。十五歳だった。

江戸時代、盲人の進む道は限られていた。検校（けんぎょう）という役職者に率いられた盲人一座に入り、按摩や鍼灸の修行をする。琵琶や三味線の芸能に勤しむ、あるいは座頭金（ざとうがね）という金貸しの知識を学ぶ、などして世渡りの技能を身につけ、互いに助け合って生活していく仕組みになっていた。選べる職業はそれだけだった。

保己一もまた雨富須賀一（あめとみすがいち）検校の盲人一座に入門した。だが、保己一の望みは学問である。悶々とした日々が続き、思い切って師匠の雨富検校に本心を明かす。「私は学問がしたいのです。」破門覚悟の告白だった。保己一の幸運はこの雨富検校に出会ったことだった。「人間、本心からやりたいことに打ち込むのは結構なことだ」と検校は言い、学問することを許されたのである。

保己一が目覚ましい研鑽（けんさん）が始まる。目が見えない保己一は誰かに本を読んでもらうしかない。全身を耳にし、耳にしたことはすべて身につけていく。盲目の身で学問に励む少年がいる、とたちまち江戸の町の評判になった。

保己一の真剣な姿に多くの援助者が現れる。保己一はついに当代随一と謳われる国学者賀茂真淵（かものまぶち）の門人になることができた。残念ながらその半年後に真淵は亡くなるが、この半年間に保己一は六国史（りっこくし：『日本書紀』をはじめとする日本の六つの正史）を読破、後の偉業を築く土台となった。六国史に記されているのは九世紀の光孝（こうこう）天皇まで。以降は日本の歴史として整理されていない。後の世の人のため、宇多天皇以降の歴史をきちんとした形で残さねば、と保己一は『史料』と大文献集『群書類従（ぐんしよるいじゅう）』の編纂（へんさん）を決意する。

『群書類従』編纂の取り組みが始まったのは安永八（一七七九）年。保己一、三十四歳。『群書類従』に収める文献は厳選に厳選を重ね、徹底的に校訂を加えた。例えば『竹取物語』も五種類

の異本を丹念に調べ、綿密に校訂している。まがい物は絶対に収めない。それが保己一の信念だった。

六百六十六冊、全五百三十巻。国学の金字塔『群書類従』が完成した時、保己一は七十四歳になっていた。その二年後に死去する。

昭和十二年、保己一の偉業を顕彰（けんしょう）する「温古（おんこ）学会」を訪れたヘレン・ケラーはこう言ったという。

「小さい頃、私は母に励まされた。日本には幼い時に失明し、点字もない時代に努力して学問を積み、一流の学者になった塙保己一という人がいた。あなたも塙先生を手本に頑張りなさい。」

一意専心の言葉そのままの人生を生きた偉人に学ぶものは多い。



このお話を読んで、まず感動したのはお母さんが毎日 8 キロの道のりを子供をおぶって医師のもとに通ったということです。私の場合、職場と家との距離は約 10 キロです。混雑していなければ車で 20 分くらいですが、歩いて往復したら一体何時間かかるでしょう。まして、子供といえども、おぶって歩けばかなりの重さです。必死に子供の回復を願う母親の愛情以外の何物でもありません。そういえば、私が幼稚園や小学校の頃は家には車が 1 台しかなく、タクシーなど滅多に使うことがないのが当たり前の時代でした。具合が悪くなると、母がおぶって小児科に連れて行ってくれたことを思い出しました。

そして、江戸時代に目が見えない少年が学問をしたいと望み、それを後押ししてくれた師匠がいたということに、人と人との巡り合いの素晴らしさを思わずにはられません。点字やカセットテープもない時代です。保己一に本を読んで聞かせるサポーターも必要だったでしょう。多くの人の支えで偉業を成し遂げたのでありますが、それは彼の人柄が素晴らしかったからなのでしょう。

私もいろいろな研修会に参加していますが、なかなか理解できなかつたり覚えられなかつたりしています。仕事が終わって自宅に帰って、ようやく資料と向き合うことができるのはもう夜中。舟をこぎながらの勉強ではなかなか理解が深まりません。まだまだ真剣さが足りないことを自覚しました。「忙しかったから」、「疲れていたから」などという言い訳をしている自分を恥ずかしく思います。1 年間にやるべきことをいろいろ書き出していますが、達成できるのはほんのわずか。今年も残り 2 か月です。一つでも多く目標を達成したいと思います。

あなたの
笑顔のために♡

フロイデ だより

2016年
11月号
今年も
あと2ヶ月!



今月の美的エッセンス

★ここでは、皆様の美容と健康をサポートするための
おすすめ美容成分や注目栄養成分などを紹介していきます。

ビタミンB6

食事で摂取したタンパク質をアミノ酸に分解し、また、それを体の各部分で皮膚や髪の毛、爪などのたんぱく質に再合成するために必要なのがビタミンB6です。ビタミンB6が不足すると、皮膚の新陳代謝がうまくいかず、肌荒れや口内炎なども起こりやすくなります。また、月経前にイライラしたり、頭痛に悩まされたりする月経前症候群(PMS)も起こりやすくなってしまいます。

ビタミンB6は、腸内細菌によって合成されますが、抗生物質を長期間服用している人は不足してしまいます。肉中心の食事をする人やアルコールを多量摂取する人も、中性脂肪がたまりやすくなってしまいますが、肝臓に中性脂肪がたまらないようにする働きがあるビタミンB6は、8月号で紹介したビタミンB2と一緒に摂るのがおすすめです。また、マグロやカツオなどの魚類に多く含まれていますので、お肉が大好きでお魚をあまり食べないという人は、特に栄養バランスには注意したいですね。



今年の夏は暑くて長かったですね。そんな影響がそろそろお肌や体に出てきている時季です。

お化粧のノリが悪いとか、小さなしわやシミが何となく増えているような気がしませんか？紫外線をたくさん吸収してしまった乾燥したお肌はトラブルもたくさん抱えています。当店で販売しているプラセンタを使ったドクターズコスメGHCが保湿対策におすすめです。



フロイデ日記

★ 先日テレビで肥満になりにくい県のランキングが紹介されていました。佐賀県は、10位。ところが、糖尿病になりにくいランキングでは、なんと32位(*.*)。どちらも偏った食事や健康に良くない生活習慣によるものです。

例えば、肥満になりにくい県ワースト1の長崎県は、坂道が多くて歩くのを嫌う傾向があり、また日ごろから料理にも砂糖をたくさん使うそうです。糖尿病になりにくい県ワースト1は青森県。朝からラーメンを食べる習慣があって、大皿料理での食事は、偏食・大食いになりやすいようです。

糖尿病と肥満。
日々の生活習慣、気を付けましょう。



あなたを笑顔にする フロイデ 3つの約束

1. お肌も体もアクをすっきり!!
2. 7千贅沢なお時間を!!
3. きれいな器具で安全に!!



〒840-0054 佐賀市水ヶ江五丁目2-8(みのり歯科診療所隣接)

※ご要望により、土・日・祝日のご予約も承ります。

メディカルサロン フロイデ ご予約等はお電話でどうぞ。 ☎ 0952-20-3001